

「生きる力を支える確かな学力の育成」

—わかる喜び・できる喜びを実感させ、活用する力を育てる授業づくりを通して—

I 研究の内容

(1) 授業づくりについて

《研究目標》

- ◎「わかる喜び・できる喜び」が実感できる授業を展開し、学習意欲を高めることにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、それらを活用した思考力・判断力・表現力の育成を図る。

「わかる喜び・できる喜び」が味わえる授業の要素となる3つの学び

- ◇体験的な学び・・・具体物（道具・素材・人など）や図などを活用したり、作業や体験などの活動を十分に取り入れたりすることにより、知識や技能を活用する意識を高め、考えを深める学び
- ◇学び合い・・・友だちと関わり合う場面で、互いの考えを尊重し合い、自分の考え・意見を工夫して他に伝えたり表現したりする学び
- ◇振り返る学び・・・疑問に思ったり、納得したりしながら、自分の考え方はこれでよかったのかな などと、自分自身を振り返る学び

- ①日川小の先行研究から「活用学習」について学び、算数科において単元や授業の計画を見直し、一実践に取り組む。
- ②児童がより成就感や達成感を得て、活用する力を育てられるように、学び合い、体験的な学習、振り返り、評価などの方法、時間、形態などを吟味し、授業改善を図る。

(2) 集団づくりについて

《研究目標》

- ◎互いに認め合い励まし合い高め合える人間関係を築く活動に取り組み、学級力の向上を図る。秩序を保ち、学び合いを深めるための学習規律の形成を図る。
- ①Q-Uアンケート学級力アンケートなどから集団や個の実態・課題を把握し、改善に向けたねらいを持って活動を組織・体験させる。

(3) 学習環境づくりについて

《研究目標》

- ◎家庭との連携を図り、発達段階に応じた取り組みを工夫しながら、授業の基盤となる基礎学力の定着や学習習慣の確立を図る。
- ①やわたタイムの活用（朝読書、繰り返し学習）などを通して基礎学力の定着を図る。
- ②家庭学習の充実をめざし、読書習慣・学習習慣の定着を図る。

II 研究の実際

(1) 授業研究

①第1学年授業研究 算数 ひきざん

・日時 平成26年11月14日（金） 5校時

・単元の目標 ◎11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。



②第5学年授業研究 算数 単位量あたりの大きさ 比べ方を考えよう

・日時 平成26年10月27日（月） 5校時

・単元の目標 ◎平均で比べることのよさに気づき、平均の意味を理解して、それを用いることができる。

◎異種の2量の割合としてとらえられる数量を数値化して表せたり、能率的に比べられたりすることのよさに気づき、比べ方や表し方を理解し、それを用いることができる。



(2) 「わかる喜び・できる喜び」が味わえる「活用学習」の授業実践（一人一実践）

(3) 集団づくりおよび学習環境づくり

- ・QU アンケートの活用，学級力向上プロジェクトについての学習
- ・QU アンケート，学級力アンケートの分析を生かした集団づくり
- ・家庭学習の手引きの活用と「家庭学習と生活の記録」カードの取り組み（10月，11月）
- ・八幡小学校学習の約束（学習規律）の見直しと学習規律アンケートの実施

II 成果と課題

○研究目標については昨年度からの継続でありめざすところは変わらないが，今年度は，日川小学校の先行研究に学び，算数における「活用学習」の実践を試みた。実際にやってみることで，次のような成果を実感できた。

- ①授業の展開の仕方「課題を捉え，見通し（作戦）を立てて，それをもとに自力解決する，操作活動を通して自分の考えを発表し，交流（学び合い）し合い，まとめ，学習を振り返る」の基本がわかり，児童に体験させることができた。
 - ②活用問題に取り組むためには，既習の学習の確実な定着が必要であることから，1時間1時間の授業を大切にすることや繰り返し学習することなど基礎・基本の定着に向けた取り組みもできた。
 - ③「活用学習」の展開の中で，図や絵を用いた場面理解やビックかるたで課題を整理すること，3段階思考法や学習過程に沿ったワークシートの活用などの手立てを学ぶことができ，他の単元や学習にも活用できた。
 - ④「活用学習」を展開させるなかで，児童の思考力，表現力を伸ばすことができた。
- 低学年の「活用学習」を実践するために単元を選び授業計画を立て展開を考えたが，特に実態把握が重要であることがわかり，実態をもとにより有効な手立てを講じることができた。
- ・「活用学習」に取り組み，ワークシート等活用して課題解決の仕方を学ぶことはできたが，「わかる・できる喜び」，問題を解く楽しさを実感させるまでに至らなかったため，研究・実践を継続したい。

○学力の定着につなげる授業を成立させるためには，集団づくりや学級のよい（前向きな）雰囲気作りが不可欠であることが実感できた。

- 各学級で学級力向上をめざして，互いのよさを認め伝える活動など実態に応じた取り組みを行った結果，協力する姿勢や学級内のよい関係づくりにつなげることができた。学級力アンケートやQUアンケートなどにより学級の実態を把握し，実態に対応した手立てを計画的に進めていくことが大切である。
- ・秩序を持って能率的に学習を進める，学び合いや教え合いなどで学習を深める，一人ひとりの存在が認められ楽しく学習するなどのために必要な学習規律は全員に定着させるように，見過ごさず一貫して継続して指導することが大切である。

○基礎学力の定着や学習習慣の確立も「確かな学力」の定着には不可欠であり，家庭学習や朝学習など授業以外の時間によるところも大きい。学校での学習状況を家庭に発信したり，「家庭学習と生活の記録」などで家庭の様子を知ったりするなどの連携を図る取り組みで，家庭の協力を得られる部分が多く成果を実感できた。今後も継続したい。

- ・家庭学習も朝学習も取り組みには，個人差がある。特に，家庭学習は，家庭の協力はあるものの，本人の意欲によるところが大きいので，発達段階に応じて，何をどのようにすればよいのか，どのくらいやればよいのかという内容的な目安をより具体的に示したり，児童が継続して意欲的に取り組める手立てを仕組んだりすることを全体で共有することも必要かもしれない。

III 成果物

- 1 第1学年算数科授業案「ひきざん」
 - 2 第5学年算数科授業案「単位量あたりの大きさ 比べ方を考えよう」
 - 3 各学級実践報告書（算数，理科）
 - 4 「集団づくり」「学習環境づくり」 各学級の取り組みと成果・課題
 - 5 家庭学習の手引きと「家庭学習と生活の記録」カード，取組結果
 - 6 八幡小学校学習の約束（学習規律）とアンケート
- （研究主任 清水 利子）